

## 巻頭言

### どこへ？

広島県立総合技術研究所保健環境センター センター長 高垣和子



広島県に奉職して30数年、大半は白衣を着て、保健、環境分野の検査・分析に明け暮れました。入庁当時華やかかりし「公害」は、今や歴史上の言葉になりつつあり、「環境保全」より「環境創造」、「環境共生」、「循環型社会構築」というフレーズが流行っているようです。さらに「地球環境問題」特に「地球温暖化」が新たにクローズアップされ、我々団塊世代が入庁した時代とは隔世の感がしているところですよ。

保健環境センターの環境部門は、地域の環境を保全し、県民生活の安全・安心を実現するため、科学行政の支援部署として試験検査、調査研究等を行ってきましたが、県では平成16年4月、8つの県立研究所(保健環境系1, 工業系3, 農業系4)を現在の企画振興局の一元的所管とし、平成19年4月には総合技術研究所に統合して、横断的・融合的な研究を推進する体制としました。その中で現在推進されているのは、複数の専門性を持った研究員の早期養成で、これによる分野横断型の融合研究の立ち上げを目指しています。これまでほとんど交流の無かった工業系、農業系のセンターとの人事異動も始まり、互いの保有技術の説明会を開催するなど、若手を中心とした技術交流も行われるようになりました。

異分野とつながった分野横断的な開発研究の立ち上げには夢があり、県の産業活力の強化にも総合力で貢献できるかもしれません。しかし、その前提である各センターごとの専門性の確保とそれによる役割の遂行もまた譲れないところですよ。

う。

そもそも環境は、人と自然(地球)の関わりあいすべてを含むものと捉えることができると考えます。現在、環境行政の方向性は、環境保全を基盤に置きながらも、持続可能な社会へ、そのツールとしては循環型社会の構築、さらには地球温暖化防止・新エネルギー導入に焦点が絞られてきています。県の環境行政を支援する役割を担ってきた環境研究所は、これらの課題に今後どこまで関わられるのでしょうか。

たとえば、循環型社会構築に資する研究とはどのような研究でしょうか。それは、これまでの検査・分析主体の調査研究では賅いきれない、もっと幅広い技術を必要としています。広島県ではこの分野は保健環境センターの重点研究分野とされていますが、他センター(工業系等)と連携して研究することが条件となっています。健康危機に対応すべくより高度な検査分析技術を追求する保健分野との違いが、年々大きくなっていくような気もしているところですよ。

われわれ環境研究所はこれからどこへ向かっていけばいいのでしょうか。今言えることは、これまでの高度な調査・分析・解析技術の真髄は維持したまま(危機管理対応は必須であり得意分野)、分析以外の新技術を取りに行くことを恐れないこと、限られた人数で創意工夫をこらし、外と連携して進むこと以外にはありえないということです。本当に厳しいけれども、今が意識改革、新技術獲得の転機と思う今日この頃ですよ。